

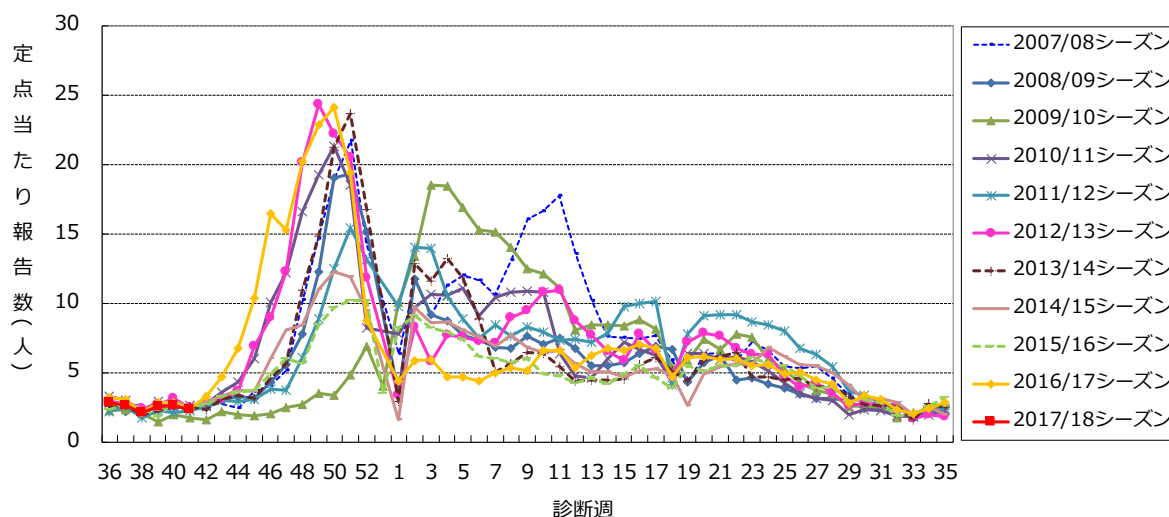
【今週の注目疾患】

【感染性胃腸炎】

2017年第41週における県内定点医療機関から報告された感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2.36人であった。感染性胃腸炎のサーベイランスはウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、エンテロウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス、サポウイルス等）、細菌（下痢原性大腸菌、サルモネラ、カンピロバクター、腸炎ビブリオ等）や原虫・寄生虫（クリプトスポリジウム、ジアリジウム等）など多種多様な病原体によるものを含む。そのため、発生に一定の疫学パターンを示さないこともありうるが、主要な原因病原体であるノロウイルスによる感染性胃腸炎が冬に流行を示し、秋口から報告が増加する傾向が見られる。2007/08シーズン以降の過去10年の動向を振り返ると、早いシーズンには第44週に定点当たり報告数5.0人を超え、またピークは例年第50週前後であった（図、表）。2009/10シーズンのみ年明けにピーク（定点当たり報告数が最大となった）を示したが、このシーズンはインフルエンザA（H1N1）pdm09が出現し、秋に大きな流行を認めたシーズンである。2016/17シーズンには2013/14シーズン以来3年ぶりに、警報開始基準値である定点当たり報告数20.0人を超える報告を認めた。

予防には食品の十分な加熱、手洗いの励行や患者との濃厚接触を避けることなどが重要である。病原体により、消毒にアルコールが有効なもの、次亜塩素酸ナトリウム（使用にあたっては「使用上の注意」を確認）が有効なもの、熱による消毒が必要となるものなど様々であるが、本感染症の原因となりうる病原体の多くがヒト-ヒト感染しうるため、患者発生時には家族内や施設内での二次感染の防止に注意する必要がある。

図：県内定点医療機関から報告された感染性胃腸炎の定点当たり報告数の推移



**表：2007/08～2016/17シーズンにおける、県内定点医療機関から報告された
感染性胃腸炎の動向**

	定点当たり報告数 5.0人を超えた週	定点当たり報告数 10.0人を超えた週	定点当たり報告数 20.0人を超えた週	ピーク週（当該週の 定点当たり報告数）
2007/08	第47週	第48週	第51週	第51週（21.7人）
2008/09	第47週	第49週	—	第51週（19.4人）
2009/10	第52週	第1週	—	第3週（18.5人）
2010/11	第45週	第46週	第50週	第50週（21.3人）
2011/12	第48週	第50週	—	第51週（15.5人）
2012/13	第45週	第47週	第48週	第49週（24.4人）
2013/14	第47週	第48週	第50週	第51週（23.7人）
2014/15	第46週	第49週	—	第50週（12.3人）
2015/16	第47週	第51週	—	第52週（10.2人）
2016/17	第44週	第45週	第48週	第50週（24.1人）